

## B-79 ヨークの高さとゆとり量の関係

東京家政大家政 ○大江于工 長塚こずえ 藤本京子 荒井純子  
木曾山かね

目的 上肢の動作によって、上部軀幹部の筋肉に移動と隆起がおきる。在来から背部のゆとりが大きい程、動作が安易であることは経験上、納得していることである。我々は被服形態の一つとしてワンピースドレスをとりあげ、特に背部ヨークにスポットをあてて、ヨークの高さが上肢の動作にともなうゆとり量に影響することを着用実験して数的に処理し、経験的見解の裏付けをした。

方法 実験材料は、厚さ  $0.283\text{mm}$ 、平面重  $0.01065\text{g/cm}^2$ 、糸密度たて  $30\text{本/cm}$ 、よこ  $27\text{本/cm}$  の天竺木綿を用い、着用実験着はワンピースドレスとし、被検者は標準体型の成人女子4名を選びヨークの切換の位置三種を設定し、実物の製作を行なった。着用後上肢の上挙 ( $45^\circ$   $90^\circ$   $135^\circ$ ) を側面と前面で行ない、チエスト線を (A) とし、バスト線 (B) とし、ウエスト線 (C) と定め、写真撮影によって BC 間の長さを計測し、更にゆとり ( $8\text{cm}$ ) をギャザーとタックの二方法にし、背中心線の形状、バスト線、ウエスト線間に生じるしわの状況を検討した。

結果 ヨークの切換線の高いほど上挙はしやすく、BC間の長さは短くなる。スカート丈はヨークの切換線の低くなるほど裾線が上り上がった。ゆとり量の処理として用いたギャザー・タックによるバスト線、ウエスト線間に生じるしわの数及び方向にも相違が見られた。